

研究テーマ: デジタル放送コンテンツの広域流通システム(1/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A17012)

研究機関: 知多メディアネットワーク株式会社

名古屋大学情報連携基盤センター

研究の概要:

地上デジタル放送はアナログ放送とは異なり、映像音声だけでなくデータ放送などのマルチメディアサービスを行うことが可能である。

図1に示すようにデータ放送では、映像番組と同時に文字情報などを表示させ、リモコン操作により各種情報を選択表示させることができる。また、データ放送はデジタル放送に多重して伝送されるため、受信機が双方向通信をする必要がなく、センター側に大規模なサーバを構築する必要がない。特に通信で問題となる緊急時の輻輳が発生しないため、緊急情報を配信する有力な手段と考えられる。

データ放送を含むデジタル放送を広域で流通させようとする場合、従来の伝送システムでは、映像音声は伝送できてもデータ放送部分を伝送することができない。そこで、データ放送を含むデジタル放送コンテンツを広域で効率的に流通させるシステムを開発し、実証確認を行う。

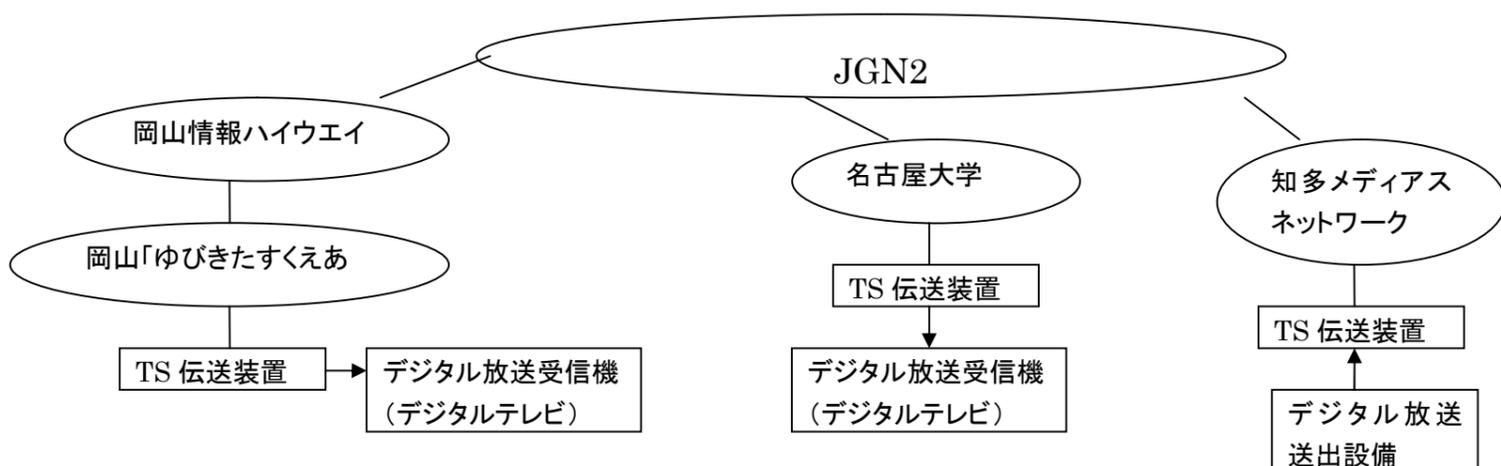


図1 データ放送画面例

研究の目的:

デジタル放送を「放送TS」と呼ばれるデジタルデータのまま遠隔地間で伝送するシステムの開発を行う。

実験機器構成:



研究テーマ: デジタル放送コンテンツの広域流通システム(2/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A17012)

研究機関: 知多メディアネットワーク株式会社
名古屋大学情報基盤連携センター

研究開発成果:

デジタル放送TSを遠隔地へ伝送する場合の基本的な知見をえるために平成17年度に以下に示すPtoPでのデジタル放送伝送実験を行った。

- (1) 知多メディアネットワーク - 名古屋大学間
- (2) 知多メディアネットワーク - 岡山「ゆびきたすくえあ」

図1に 岡山「ゆびきたすくえあ」での受信風景を示す。

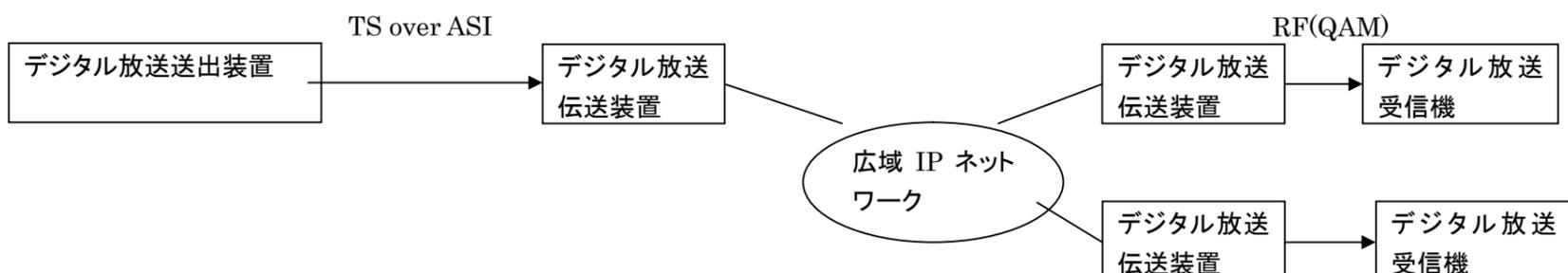


図1 デジタル放送受信風景(岡山「ゆびきたすくえあ」)

図2 デジタル放送伝送装置(試作)

名古屋大学ならびに「ゆびきたすくえあ」ともに良好な受信を確認した。受信拠点側でリモコンによりデータ放送を操作して、デジタル放送を可能であることを確認した。

平成18年度は、デジタル放送を複数拠点間で伝送可能とするシステムの検討をおこなった。下記検討したシステムを示す。



最終年度である平成19年度は、上記システムを実際に試作した。図2に試作したシステムを示す。このシステムを用いることで複数の遠隔地間でデジタル放送TSを流通させることが可能となる。

プロジェクトのアピールポイント:

本システムが実用化されれば、データ放送などのマルチメディアサービスを活用した情報提供を効率的に行うことができ、地域のローカル情報を全国に発信する手段となりうる。

プロジェクトの自己評価:

今後、アナログ放送からデジタル放送への完全移行が進められる中で、デジタル放送コンテンツの効率的な流通システムの構築は今後重要度をましてくると考えられる。今回開発したシステムを用いることで上記要求をみたすことができると考えられる。